

時間であつたと申します。兒童は疲勞回復の外に更に心身の發育をいたしますため、成人に比べまして一層多くの睡眠が必要でございます。兒童は睡眠中に發達いたします。睡眠の長さや生長の強さ殊に大脳半球の發達との間に著しき平行がございます。自然の必要なる要求は必ず充分に満足せしめねばなりません。この意味に於て兒童の睡眠は神聖なものでございます。父母は例へ學校の時間に後れても熟睡した兒童の、神聖なる權利を犯さぬやう、また教師も其遅刻を責めてはなりません。熟睡の十五分は極めて有効な學校課業の、數時間に比べまして彼の心身を發達させます度は、其幾倍であるかわかりませぬ。個性境遇の異つて居ります兒童を一律に律しまして、毎朝一定の時間に、起床なさしめますのは兒童の眞の必要に適應せぬ學校教育の獨斷的要求であります。

本調査は弊園全保の協力調査いたしましたものですけれど簡便のため私の名で報告いたします。

○厚著と薄著

(醫學士 原田達三氏述)

寒くなりますと、子供の呼吸器病、たとへば肺炎が澤山に殖えて参ります。そこで家庭では風引きを恐れまして、ややもすると子供に厚著をさせる傾きが御座います。私の最近に見ました一例は生後一ヶ月餘の子供ですが、「ネル」の襦袢を二枚著せ、其間に眞綿を入れ、其上に綿入れを二枚著せ、又其上から袖なしを著せ、襦袢は木綿を下にして「ネル」で巻き、又綿入れの襦袢を著せ、著物の上から毛布でまき、其上から又布圍で熨斗の様に包みましてそれをおぶつて参りました。その子供を著物の紐を解いて見ますと、汗が澤山に出て「ネル」の下に流れて居まして却て風邪を引かす様になつて居りました。そこで母親にあまり厚著であるから、もう少し薄著になさいと申しますと、その母親はそれではどの位が普通ですかと尋ねました。この母親の質問は當然のことでありまして、少しく子供の事に注意なさる方々に必ず起るべき疑問だと存じます。實は是に就てまだ確な標準は定まつては居りませんが、日本でも外國でも今それを研究しつつあります。私も昨年からはらべて居りますが、この標準をきめますには子供の體質によつても異なりますし、綿入れにしても厚い薄いがありますし、日

によつて氣温もちがひますから、明確に定めることは非常に困難でありませう。

人間が著物を著て、恰度暑くもなく寒くもないよい心地であると云ふ温度をしらべましたのは佛人モーレルと云ふ人でありませう。そして其温度を生理的の零點或は正温又は中温と名づけました。其方法は湯に入れ、其人の恰度よい湯の温度をはかり、それを其人の中温といたしました。其温度は大人に於て攝氏三十一度乃至三十二度でありますが、これは佛人のでありますから日本人はこれとはちがひます。平井博士は日本人（大人）の中温をやはり湯によつてしらべましたが、日本人は暑湯すきで攝氏四十三度内外で、殊に昔から江戸子は大變暑い湯がすきですが、そんな人の好む湯の温度は攝氏の五十度以上ださうであります。子供にはどの位が中温であるかと云ひますと攝氏四十一度乃至四十二度の湯が適當して居るさうです。之は裸體でお湯に入れたそのお湯の温度でありまして、著物を著た場合にはどうかと云ふに、これはだれも同じと云ふわけには参りませせん。そこで私は平井先生の用ゐられた方法と同じ方法、即ち木の筒のまはり穴をあけその筒の中へ留點寒酸計（水銀が昇れば下らぬもの）を入れたものを、脊の皮膚と肌膚或は襦衣との間に三十分程入れて、そのまはりの空氣の温度をはかりました。そして當時の子供の呼吸、脈搏、顔

貌、發汗の有無、機嫌の良否、室温等を參考しまして、凡そ其中温と見做すべき温度を測定いたしました。斯様にいたしますと小さい子供程中温が高うございます。外國人は足や股でもはかつてありますが、日本人は著物の都合が悪いので、外部の空氣の温度になり易い爲め、脊ではかるのが一番よろしう御座います。私の調べました子供の數はまだ甚だ少うございますので、平井先生の調べられました結果と私の調べました結果とを一緒にして、唯御參考迄に申し上げますと

初生兒

攝氏三十五度五分

六ヶ月迄

同 三十四度

六ヶ月以上一年迄

同 三十三度二分

一年より二年まで

同 三十二度五分

三年より五年迄

同 三十一度—三十二度

七年より十年まで

同 二十九度五分—三十度

十年より十五年迄

同 二十五度五分—二十九度五分

この表はまだ確定したものとは申されませんが、併し著物を何枚著せましてもこの表の温度附近でありましたならば、甚だしい厚著ではなからうかと思ひます。モーレルは夏を除けば中温は春秋冬とも同様であると申して居ります。（『兒童研究』第十八卷第七號より）